

# 東京ベイ e S Gプロジェクト (ドラフト)

～ 東京湾から日本の未来を創り出す ～

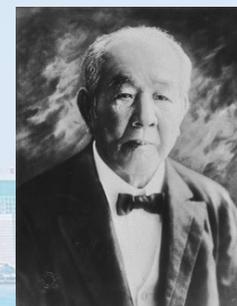


# 「社会の構造改革」を速やかに実装する

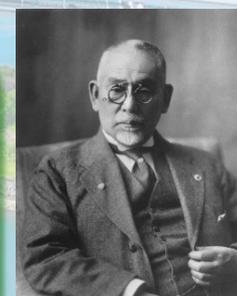
- 人類は、**新型コロナウイルス感染症という100年に1度の危機に直面**しており、我々の暮らしや社会経済活動は大きな打撃を受けている。密を避ける活動や働き方の変革など、社会全体のありようが問われ、また、**我が国が世界のデジタル化の潮流に大きく取り残されている**ことや、経済成長の面でも後れを取っている状況など、様々な課題が浮き彫りになった。こうした状況を踏まえ、**これまでの仕組みやアプローチを根本的に改革する**必要性に迫られている。
- 人類を脅かしているのは感染症だけではない。**気候変動の影響は人々の身近な生活領域まで及び、地球環境を取り巻く問題は歴史的な転換点を迎**ており、気候危機への対処も待ったなしの課題である。
- 昨年、各界の有識者で行った、「**ポスト・コロナにおける東京の構造改革**」についての議論の中では、「**DXがもたらす東京の新しい未来を実現すべき**」、「**自然との調和など、コロナ禍を踏まえた都市のリデザインを進めるべき**」、「**アジアで一番強い経済・金融都市を目指すべき**」、また、「**今やらないと世界から取り残される危機感をもって、東京の構造改革を進めるべき**」などの提言を頂いた。
- **コロナ禍の今だからこそ、「感染症の脅威」と「気候危機」の2つの危機を乗り越えた先にある未来の東京の都市の姿を構想し、その実現に向けて、具体的な「社会の構造改革」を速やかに実装する**必要がある。最先端技術を活用し、東京の安全・安心を高め、コロナ禍でダメージを受けた経済の**持続可能な回復「サステナブル・リカバリー」**にも繋がるようなまちづくりを進めていく。

# 危機を乗り越え、50年・100年先の未来の東京を創る ～ 偉大な先人たちの精神を受け継ぐ ～

- 歴史を振り返ると、東京の礎を築いてきた先人たちは、「持続可能性」を希求し、先見性と確固たる信念、絶え間ない努力で幾多の困難を乗り越え、ビジョンを描いてきた。
- 「日本資本主義の父」と呼ばれる**渋沢栄一**は、「国全体が豊かになるためには、経済発展の利益を独占するのではなく、社会に還元することが大切である」という考えのもと、**持続可能な社会の実践**に努めた。
- 関東大震災後、「帝都復興計画」を策定した**後藤新平**は、人の流れや物流の変化など、**50年・100年先の未来に住む人々を見据えた都市づくり**を進めた。
- 感染症と気候変動という2つの危機に対処しながら、ポスト・コロナにおける都市モデルを描くに当たっては、偉大な先人たちの精神を受け継ぎ、「**持続可能性**」と「**経済・金融**」を両立するため、**最先端の「DX」を鍵に、50年・100年先を見据えた都市のあるべき姿**を描いていく。
- この考えのもと、**本来の「ESG」(Environment, Social, Governance)の概念に加え**、以下の想いを込めて、「**東京ベイeSGプロジェクト**」として検討を進める。



渋沢栄一  
(写真：国立国会図書館)



後藤新平  
(写真：国立国会図書館)

**e** : 環境 (environment) に加え、**エコロジー (e**cology) 、  
**経済 (e**conomy) 、新時代を切り拓く**画期的な技術 (e**poch-making)  
**SG** : 渋沢栄一、後藤新平の精神を受け継ぐ (Shibusawa、Goto)

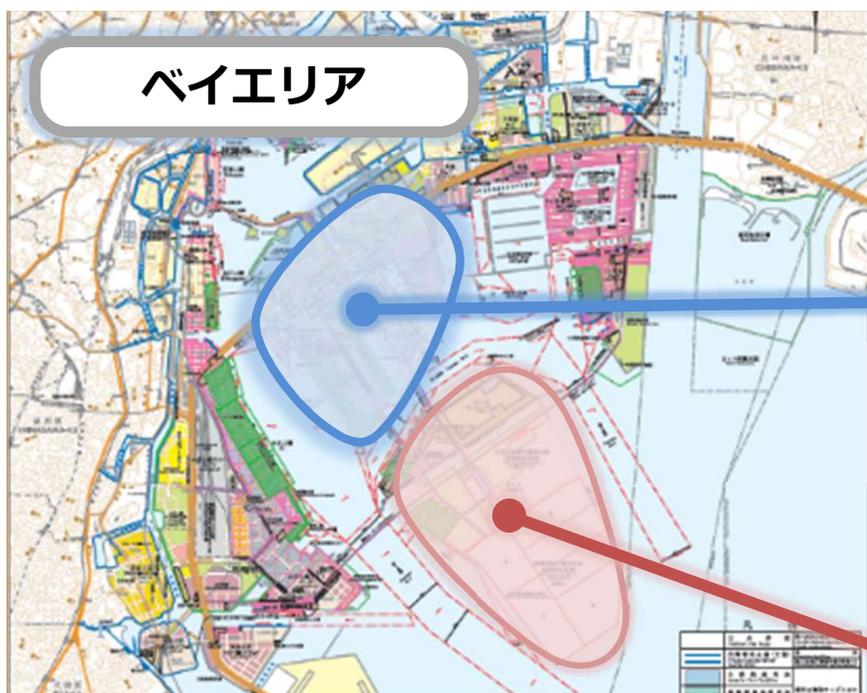
# 「自然」と「便利」が融合する持続可能な都市を創る

- かつて、世界最大の都市であった「江戸」では、衣食住のあらゆる場面でリサイクル・リユースが行われる**循環型社会（サーキュラーエコノミー）**が成立し、「自然」と調和した豊かな街が育まれてきた。
- 21世紀は「都市の世紀」と呼ばれ、現代の都市づくりでは経済の発展による**生活の利便性、物質的な豊かさや娯楽性**などが追求されてきた。
- また、戦後の経済発展の中で、日本企業は省エネ、公害対策など高い環境技術を培ってきたものの、世界が環境投資を進めていく中で、日本は後塵を拝している。
- 江戸時代の伝統や日本企業の高い環境技術に再び着目し、現代の最先端のテクノロジー（デジタルテクノロジー、グリーンテクノロジー）を「使い倒す」など**「社会の構造改革」**を速やかに実装することで、世界の大都市のモデルとなるような、「自然」と「便利」が融合する**持続可能な都市**を創っていく。



# ベイエリアを舞台に未来の東京を築く

- 水辺空間という「自然」に恵まれたベイエリアには、日本を代表する物流ターミナルに加え、商業機能、エンターテイメント、東京2020大会関連施設など**多様な魅力を持つ「臨海副都心」**や、将来的には**約1,000haの広大な土地となる新しい埋立地**といったポテンシャルが存在する。
- このポテンシャルを活かし、**ベイエリアを舞台にプロジェクトを先行して展開し**、デジタル時代においても「ここにしかない」魅力を求めて人々が集まり、気候危機を乗り越え「持続可能な都市」の範となる、「**自然**」と「**便利**」が融合する**都市モデル**を実現する。



- 職・住・学・遊の機能や、水に親しめる公園などがバランスよく立地する、ポテンシャルの高い都市
- 東京2020大会関連施設、民間開発による商業施設、ホテル、ホールなど、新たな魅力が創出されている



有明アリーナ  
(有明北地区)



東京ビッグサイト  
(有明南地区)



お台場の夜景  
(台場地区)

- 他に類を見ないポテンシャルを持つ新しい埋立地

## 目指す姿のイメージ

# Step I (2021~2030) : ベイエリアから世界最先端を取り戻す

### グリーンファイナンスを活用したプロジェクトの展開

- ✓ 「Tokyo Green Finance Market (仮称)」の活用により  
グリーンTech企業が集積し、様々なプロジェクトを展開

### ZEVを活用したマルチモーダルな交通体系

- ✓ ZEV、燃料電池船等の活用により、域内の移動や、  
都心・羽田空港等とのアクセスを飛躍的に向上

### 空間的広がりを活かしたデジタル都市

- ✓ DXの一早い実現により、キャッシュレス、医療など様  
々な分野で革新的なサービスを提供

### 世界中の人々を魅了する「遊び場」

- ✓ ポップカルチャーから、食文化、伝統芸能、スポー  
ツまで、リアルとバーチャル双方で楽しめる場



### テクノロジーの巨大実装エリア

- ✓ 大胆な規制緩和により自由度の高い実験が可能な工  
リアとして、ドローン、空飛ぶクルマ、自動運転等  
の大規模な実装を展開

### カーボンハーフのまち



## Step II (2030~2050) アジアを代表するイノベーションセンター

### ゼロエミッションのまち

- ✓ 域内使用エネルギーの100%脱炭素化

### デジタル×イノベーション都市

- ✓ プロジェクトの取組が進化し、交通、物流、医療、エネルギーなど世界初のイノベーションが次々と創出

### スタートアップの集積拠点「Startup Village」

- ✓ テクノロジーの大規模実験が可能な環境の中に、国内外のスタートアップが集積する一大拠点を形成

## Step III (2050以降) 新しい価値を生み続ける世界のモデル都市

### 世界に先駆けた22世紀型の未来都市

- ✓ 空や地下空間、海上、海中などあらゆる場所で生活できる22世紀型のまちにリプレイス

### 世界の玄関口として人々が交流する「海と緑と調和した都市」

- ✓ 大学やエンターテインメント施設、商業施設等が立地し、世界中の人・モノ・情報が集積する「東京の顔」

### 22世紀型未来都市



地産地消（江戸前の魚）



泳げる東京湾

### ゼロエミッションのまち



フードテック



両エリアの機能が融合し、  
アジアを代表するイノベーションセンターに

### Startup Village



### 「海と緑と調和した都市」



# 「東京ベイ e S Gプロジェクト」の実現に向けた戦略

## 100%クリーンエネルギー、ゼロエミッションを実現

- ・スマートグリッドをはじめとするグリーンテクノロジーの活用により、域内のエネルギーを再生可能エネルギーと水素を柱とした100%クリーンエネルギーで賄う

## 最先端のデジタルテクノロジーを実装

- ・官民を挙げ日本の本気を魅せるデジタルテクノロジーを駆使し、サステナブルな都市を実現する
- ・都市空間で最先端技術を実証していくための環境を整備、広大な東京湾の埋め立て地などを、最先端テクノロジーの巨大実装エリアとして開放する

## グリーンファイナンスを活用したプロジェクトの展開

- ・「Tokyo Green Finance Market（仮称）」の活用等により世界中のグリーンTech企業の集積を図り、グリーンやサステナブルをキーワードにした様々なプロジェクトを展開する

## サステナブルな都市・交通ネットワークを充実

- ・地下鉄の事業化などにより都心や羽田空港等とのアクセスの飛躍的な向上を図るとともに、ZEVなどを活用した公共交通モデルを構築する

# バイエリアから世界へ 「人類の未来の水準点となる都市の姿を世界へ広げる」

## バイエリア⇒東京

- 21世紀のあるべき都市像を実装する



## 日本のモデル

日本中に成果を波及させる



## 世界のモデル

バイエリアが  
未来の水準点となる



## 今後のプロジェクトの進め方

10月 「ポスト・コロナにおける東京の構造改革 提言」

2月 「東京ベイeSGプロジェクト」ドラフト公表

有識者ヒアリング など

3月末 「東京ベイeSGプロジェクト」公表

プロジェクト  
展開

- ・ 「構造改革」を速やかに実装
- ・ 「サステナブル・リカバリー」の実現